

朝拜 四徳

式

宴醉 五行

同尺之事 金ノ定

長二尺七寸五分 廣一尺六寸五分 厚三寸 足高二寸五分 足廣四寸 足厚二寸七分

足付所切口ヨリ四寸 平七分、口傳在之、  
木ハ檜ヲ可用略中

一組之事、八足ト云モノ也、今モ神前ニ有之、其後四足ヲ人間ノ組ト號シテ用之、同名所ノ事、組ノ面ニアリ、宴醉、朝拜、四徳、五行、式、是也、厨ヲ守ル六星、此組ノ上ニ五ノ名所ニ下リテ守護セリ、今一ノ名所ヲ口傳トシテ、是ヲ當流ニ秘スル也、仍名所ニ隨ヒテ切物ヲ可置、上下事在之、

〔大草家料理書〕一組の寸法事、在形板長三尺三寸五分、廣二尺一寸五分、厚二寸八分、足高二寸五分、

足廣四寸二分、厚一寸八分、一足付事、切口より三寸、傍より七分、略中

此組は御前包丁の寸尺なり、膳部方の用には、此尺より内を以て可作、在口傳、

〔宗五大草紙上〕料理之事

まな板の寸法の事、長三尺壹寸八分、廣壹尺七寸貳分、あつさ貳寸、足の高貳寸八分、足の付やう、切目より内へ壹寸八分入べし、平より内へ八分入て作なり、但りうく、多し、かはるべし、一りうのを注侍也、

〔甲陽軍鑑十六品第四十五〕一寸法之事

末那板 末那梵語也、此ニハ云、魚ト、 廣一尺八寸、足高二寸、板厚四寸、長三尺、已上の高六寸也、鵠末那

板可替也、